



令和4・5年度 港区教育委員会研究奨励園

麻布幼稚園だより

令和5年6月号
港区立麻布幼稚園
園長 酒井 正美

水無月、梅雨の季節となりました。この時期、梅雨の晴れ間には、砂遊びや水を使った遊び、園内の草木や虫などの自然に関わる遊びを楽しんでいきます。雨の日には、室内の遊び、体を動かす遊びの工夫をしています。大人にはちょっと厄介に思うこともある梅雨ですが、この時期ならではの天候や自然を楽しみ、興味・関心がもてるようにしていきたいと思います。

さて、4月に「子ども家庭庁」が発足しました。「子どもまんなか社会の実現」や「幼児教育・保育施設の質の向上」といった言葉が頻繁に言われているところです。子育てをしやすい社会になること、子育てをしている保護者への支援がしっかりと行われることなど、制度が充実することと併せ、全ての子供の心と体が健康に育つこと、全ての子供の教育の権利を認めること、といった子供側の視点をしっかりと実現していかななくてはなりません。

就学前の全ての子供には、「育ちの保障に向けた取組の強化」と「小学校教育への円滑な接続に向けた各地域における体制整備の支援」といった取組が必要とされています。乳幼児施設の保育・教育の質の問題、年齢に合わない早期教育や過剰な習い事への傾倒が散見されるなど、前述の取組に向けた課題解決は急務と考えます。

公立幼稚園では、文部科学省から示されている小・中学校の「学習指導要領」にあたる、「幼稚園教育要領」に則した教育を実施しています。「幼稚園教育要領」では、「幼稚園で展開される生活や指導の在り方は幼児期の特性にかなったものでなければならない」と明記され、特に重視しなければならないこととして、「幼児期にふさわしい生活が展開されるようにすること」「遊びを通しての総合的な指導が行われるようにすること」「一人一人の特性に応じた指導が行われるようにすること」の3点が挙げられています。

港区では、小学校学区の公私立保育園・幼稚園・小学校との合同研修会、中学校学区の公立幼稚園・小学校・中学校との研究協議会を実施しています。地域の幼児教育の質の向上へ寄与すること、小学校以降の教育につながる幼児教育の取組への理解を深め接続を推進することなど、今後、公立幼稚園に増々求められることに力を発揮し、役割を果たしていきたいと思います。

麻布幼稚園には、身近な自然に触れられる、体を動かす遊びが日々展開される園庭があります。直接的・具体的な体験は、幼児の心身の発達を促します。また、人と関わるからこそ起こる自己主張のぶつかり合いや葛藤などを通して互いに理解し合う体験は、幼児の「道徳性・規範意識の芽生え」「人と関わる力の基礎」を育てます。今後も公立幼稚園として、保護者・地域の皆様と共に、幼児期に特性に合った教育、質の高い教育を推進してまいります。